


東部地区

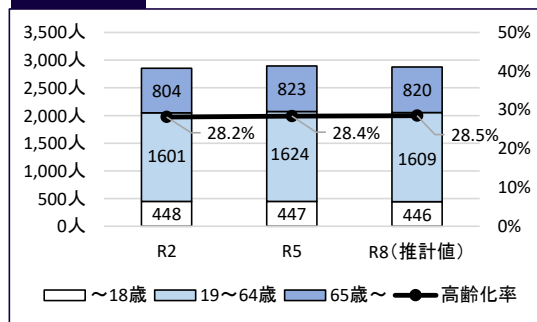
◆概要

	【位置図】	まち協名	東部地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市阿野田町3497	電話	0595-83-3119
		地区構成	管内町 阿野田町 北鹿島町 南鹿島町		
		地域特性	亀山市の南東に位置し、北鹿島町、南鹿島町、阿野田町、管内町の4町で構成され中央を鈴鹿川が流れています。北鹿島町・南鹿島町は、県道28号と関西本線、鈴鹿川に挟まれており、鈴鹿川以南には、阿野田町が広範囲に位置し、二本松団地を中核にした二本松地区、更に東には、管内町と樺野、中野地区が配置する形態で構成しています。住宅と農地が多く、工場・トラックステーション等が点在しています。		
面積	410.5ha	ホームページ	http://www.tobumachikyو.wordpress.com/		
めざす姿	我がまちが居心地よく楽しい生活を維持し、将来に渡って豊かさを享受できるまち				
地域の誇り	長い歴史の中で大切に引き継がれてきた郷土芸能と文化				

◆人口

	令和2年	令和5年	令和8年 (推計値)	増減	
総人口	2,853人	2,894人	2,875人	41人	
人口密度	6.95人/ha	7.05人/ha	7.00人/ha	0.10人/ha	
65歳以上	人口	804人	823人	820人	19人
	比率	28.2%	28.4%	28.5%	0.3%
18歳以下	人口	448人	447人	446人	-1人
	比率	15.7%	15.4%	15.5%	-0.3%
外国籍	人口	147人	195人	48人	
	比率	5.2%	6.7%	1.6%	

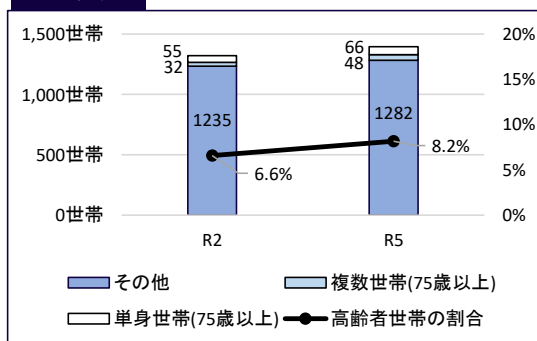
◆人口推移



◆世帯

	令和2年	令和5年	増減
総世帯	1,322世帯	1,396世帯	74世帯
単身世帯 (75歳以上)	55世帯	66世帯	11世帯
複数世帯 (75歳以上)	32世帯	48世帯	16世帯
高齢者世帯割合	6.6%	8.2%	1.6%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	令和2年	令和5年	増減
要支援1.2	49人	51人	2人
要介護1～5	105人	95人	-10人
合計	154人	146人	-8人

◆地域組織

	令和2年	令和5年	増減
自治会	14	14	0
老人クラブ	1	1	0
子ども会	0	0	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	2
主任児童委員	1
福祉委員	30
介護保険施設・事業所	1
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	2
病院・一般診療所	1
歯科診療所	1
薬局	1
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	19

◆担当地域包括支援センター

亀山第1地域包括支援センター ぼたん

◆サロン活動

	令和2年	令和5年	増減
ふれあいいきいきサロン	3	3	0
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 民生委員・児童委員 福祉委員 老人会長

◆活動内容

【交流活動】

老人球技大会や三世代交流事業のマラソンソフトボールを行い、子どもから高齢者のふれあい活動を行っています。

【訪問活動】

75歳以上の高齢者見守り活動を毎月行っています。



文化演芸大会



老人球技大会

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・青壮年マラソンソフトボール大会
- ・親子たこづくり
- ・中学生ボーリング大会
- ・交通安全・防災講座
- ・敬老会
- ・文化演芸大会
- ・老人球技大会
- ・環境講座
- ・干支づくり

◆生活支援コーディネーターからのコメント

東部地区の人口は2,894人で、そのうち28.4%にあたる823人が65歳以上です。地域内1,396世帯のうち、8.2%にあたる114世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の6.7%にあたる195人が外国籍です。

地域の特色として、移動販売やフランチャイズによる配達その他、近年は大型スーパーの立地もあり、比較的買い物をするのに便利な環境です。地域活動として、地域の一大イベントである文化演芸大会にボランティアスタッフとして中学生が参画したり、三世代交流事業では小・中学生が参加しやすいよう凧づくりや干支づくり等を企画するなど、若年層がさまざまな形で行事に携われるよう工夫されています。また、75歳以上の高齢者への見守り訪問に小学生が参加する等、住民同士の顔の見える関係性を大切にしている地域もあります。

今後は地域の一体感の醸成を図りながら、ちょっとした困りごとに住民同士で対応する支えあい・助け合いの体制づくりを検討する機運が高まっていくことが期待されます。